

# IP網移行期間中のユニバーサルサービス交付金制度に基づく 補填額算定の在り方

---

論点整理(案)

令和4年7月

## 1. IP網への移行期間中の補填額算定に適用するLRICモデル

### <事業者からの主な意見>

- **補填額の算定には、引き続きLRICモデルを適用することが適当。**
  - LRICモデルは、現時点で利用可能な最も低廉で最も効率的な設備と技術でネットワークを新たに構築した場合の費用を算定するものであり、非効率性の排除とともに透明性・公平性の確保が可能。したがって、補填額の算定には、引き続きLRICモデルを適用することが適当。
- **実際費用方式への転換も含め、ユニバーサルサービス補填額と接続料とを合わせた検討が必要。**
  - 現実的にはLRIC方式が想定するように需要減少に応じてリニアに設備量を減らしていくことは困難であり、LRIC方式による算定は実態との乖離が大きい。このため、実際費用方式への転換も含め、ユニバーサルサービス補填額と接続料とを合わせて、固定電話の安定的な提供を確保するための検討が必要。
- **IP網への移行期間中のユニバーサルサービス補填額の算定については、設備構成やサービス提供の実態及び移行スケジュールを踏まえた算定方法とすることが必要。**
  - IP網への移行期間中のユニバーサルサービス補填額の算定については、当該期間中、PSTNとIP網が併存すること等、設備構成やサービス提供の実態及び移行スケジュールを踏まえた算定方法とすることが必要。
- **IP網への移行期間中のユニバーサルサービス補填額の算定については、第8次PSTN-LRICモデルと第9次IP-LRICモデルによる算定値の加重平均値を補填額とすることが適当。**
  - IP網への移行期間中のユニバーサルサービス補填額の算定については、接続料算定に用いるLRICモデルと同一モデルを用いて補填額を算定するという従来の整理を踏襲し、IP網への移行期間中の接続料算定に第8次PSTN-LRICモデルと第9次IP-LRICモデルが組み合わせて適用されていることを踏まえ、第8次PSTN-LRICモデルと第9次IP-LRICモデルによる算定値の加重平均値を補填額とすることが適当。

## 2. 第9次IP-LRICモデルの適用方法

### <事業者からの主な意見>

- **第9次IP-LRICモデルのアクセス網の設備配置ロジックについては、次期モデルの検討の中で見直しを図る必要がある。**
  - 第9次IP-LRICモデルには、アクセス網の設備配置ロジックの一部において効率的な設備配置を行えるものとなっていないという課題が存在しており、次期モデルの検討の中でモデル内の算定ロジック等の見直しを図る必要がある。
  - アクセス網の設備配置ロジックについては、IP化のさらなる進展や技術革新を踏まえ、必要に応じて次期モデル以降において見直しを行うことが適当。
- **IP網への移行期間中のユニバーサルサービス補填額の算定に当たっては、第9次IP-LRICモデルをモデル外で補正することが現実的。**
  - IP網への移行期間中のユニバーサルサービス補填額の算定に当たっては、第9次IP-LRICモデルについて、本来はモデルのロジックを改修すべきと考えるが、これには一定の時間を要することが想定されるため、当座の対応として、簡易的にモデル外での補正を実施することが現実的。
- **第9次IP-LRICモデルのモデル外での補正方法については、一定の合理性が認められる。**
  - 長期増分費用モデル研究会で提案されている第9次IP-LRICモデルのモデル外での補正方法については、NTT東日本・西日本の実網での設備配置を参考とすることで、モデル本来の目的である効率化(コスト最小化)が図られており、一定の合理性が認められる。また、補正対象が、アクセス網の設備配置ロジックのうちコスト比較部分に限定されており、その他の設備との整合も図られている。
- **NTT東日本・西日本の実網での設備配置を参考としてモデルを補正することは、今回に限り、最低限の補正措置として取り得る選択肢と考える。**
  - 仮にユニバーサルサービス補填額の算定に第9次IP-LRICモデルをそのまま適用する場合、NTT東日本・西日本の実網での設置台数を大幅に超えるFRTが配置されることとなるが、それを補正するための有効なデータがない状況において、長期増分費用モデル研究会で提案されているNTT東日本・西日本の実網での設備配置を参考としてモデルを補正することは、今回に限り、最低限の補正措置として取り得る選択肢と考える。

## 1. IP網への移行期間中の補填額算定に適用するLRICモデル

## 2. 第9次IP-LRICモデルの適用方法

### <委員からの主な意見>

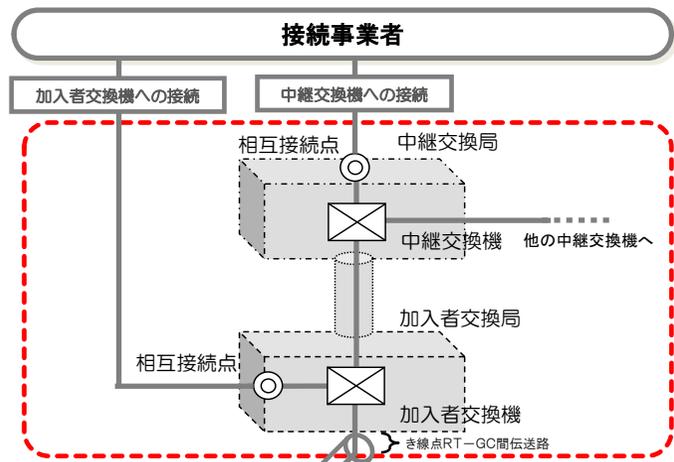
- FRTの設備配置については、モデル外補正の結果、かなり効率的な配置に近づけることができていると認識している。
  - 第9次IP-LRICモデルでの理想的なFRT配置台数は未知であるものの、モデル外での補正では、NTT東日本・西日本の実際の設備配置を参考として、FRTの配置台数を約8.2万台から4.9万台に抑えており、モデル外補正の結果、FRTの設備配置については、かなり効率的な配置に近づけることができていると認識している。
- ある程度合理性をもった補填額の算定が可能となるような次期モデルを早期に開発すべき。
  - 第9次IP-LRICモデルにモデル外で補正を行うことは仕方ないと感じる。ただし、補填額の算定方法は国民に負担を求める金額の基礎となるものであり、ただ3年後を待つということではなく、ある程度合理性をもった補填額の算定が可能となるような次期モデルを早期に開発すべき。

## 1. IP網への移行期間中の補填額算定に適用するLRICモデル

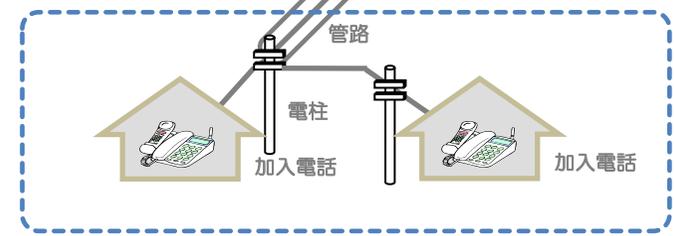
- 電話のユニバーサルサービス制度においては、ユニバーサルサービス設備との接続等により受益している電気通信事業者が補填のための負担金を拠出しているが、その負担は実際には利用者に転嫁されている。こうした点も踏まえ、電話のユニバーサルサービス制度における補填額については、現時点で利用可能な技術を用いて効率的に構築された設備を前提として算定することとされており、現在、LRICモデルを適用した算定が行われている。
- IP網への移行期間中(令和4年4月から令和6年12月まで)の補填額の算定については、接続料算定に用いるモデルと補填額算定に用いるモデルの整合をとるため、IP網への移行期間中という過渡的な期間に限り適用することも踏まえ、第8次PSTN-LRICモデルによる補填額算定値と第9次IP-LRICモデルによる補填額算定値の加重平均値をとり、これを補填額とすることが適当ではないか。
- この際、加重平均比率は、移行工程・スケジュールから予測した年度ごとのトラヒック移行割合に基づき定めた、接続料算定時と同一の比率を適用することが適当ではないか。
- また、同期間中の第9次IP-LRICによる補填額の算定に際しての加入者回線の取扱いについて、接続料算定に用いるモデルと補填額算定に用いるモデルの整合をとるため※、まずは実際に設置されている回線種別(メタル回線)に基づき補填額を算定することが適当ではないか。
  - ※ IP網への移行期間中の第9次IP-LRICモデルによる接続料の算定については、LRIC方式の考え方に立脚すれば、モデル上の加入者回線は、実際に設置されている回線種別(メタル回線)に限定せず、より経済的な回線種別に置き換えることが適当と考えられる一方、現に加入電話の加入者回線がメタル回線により構築されており、いずれメタル回線の維持限界が到来することが見込まれるものの、その時期が明らかにされておらず、また既存メタル回線の光回線への移行を瞬時に完了できるわけではないことを踏まえ、まずは実際に設置されている回線種別(メタル回線)に基づき行うこととしている。
- なお、第9次IP-LRICモデルによる補填額の算定に際しての加入電話アクセス回線のコスト算定方法、緊急通報のコスト算定方法及び公衆電話のコスト算定方法については、長期増分費用モデル研究会において検討された整理を踏まえた対応をとることが適当ではないか。

## ■ LRICモデルによる接続料及びユニバーサルサービス補填額の算定

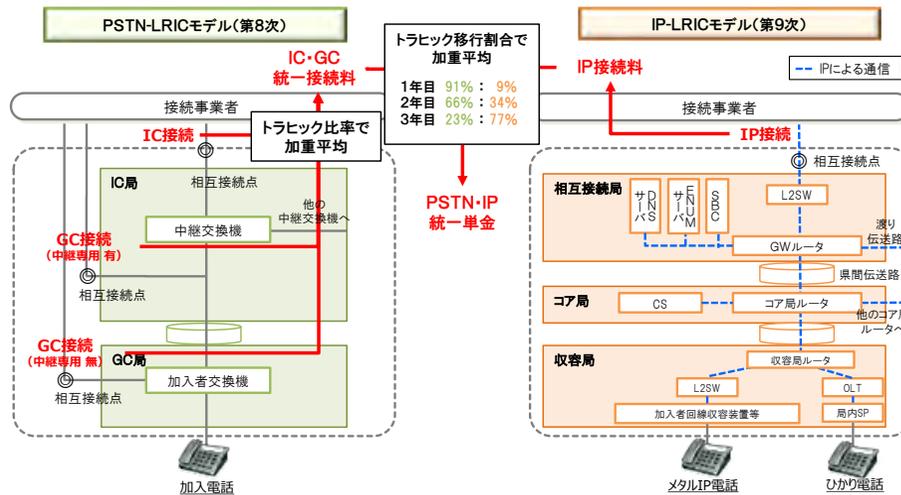
IP網への移行期間中の加入電話/メタルIP電話の電話網  
(加入電話の電話網のイメージを例示)



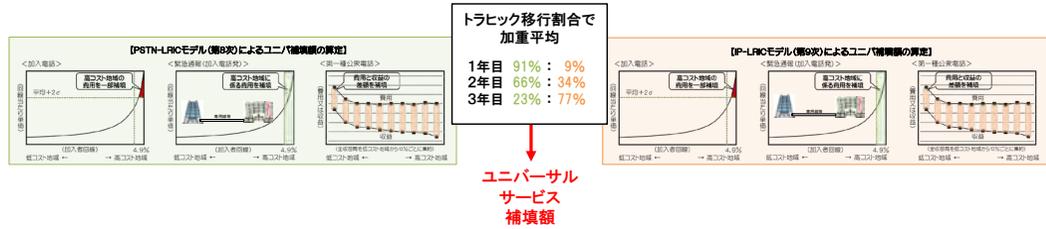
LRICモデルを用いて  
接続料を算定



LRICモデルを用いて  
ユニバ補填額を算定



IP網への移行期間中の接続料算定には、第8次PSTN-LRICモデルと第9次IP-LRICモデルを組み合わせ使用。(令和3年9月 情報通信審議会答申)



IP網への移行期間中のユニバーサルサービス補填額算定にも、第8次PSTN-LRICモデルと第9次IP-LRICモデルを組み合わせ使用。

## 2. 第9次IP-LRICモデルの適用方法

- 第9次IP-LRICモデルについては、長期増分費用モデル研究会での検討の中で、アクセス網の設備配置ロジックの一部が十分に効率的な設備配置を行えるものとなっておらず※、その結果、同モデルの出力において、き線点遠隔収容装置(FRT)が十分に効率的な台数とは考えられないほど多数配置されてしまうことが指摘された。

※ 第9次IP-LRICモデルでは、小規模な収容局の配下で「コスト判定FRT」が配置されやすい構造となっているが、「コスト判定FRT」の配置有無の判断が、収容局から離れたき線点毎に局所的な設備配置を効率化するように行われ、面全体での「コスト判定FRT」の最適配置を導出できていないと考えられる。

- LRICモデルは、「通常用いることができる高度で新しい電気通信技術を利用した効率的なものとなるように新たに」設備を構成できるものであることが求められる。したがって、第9次IP-LRICモデルを、アクセス網の設備配置ロジックが十分に効率的な設備配置を行えるものとなるように見直すことが必要ではないか。

- また、補填額の算定も、前記のとおり「通常用いることができる高度で新しい電気通信技術を利用した効率的なものとなるように新たに」構成した設備配置を前提として行うことされている。一方、第9次IP-LRICモデルのアクセス網の設備配置ロジックの見直しには一定の期間を要する可能性もあることから、見直しに係る対応が完了するまでの間の補填額の算定には、長期増分費用モデル研究会での検討の中で提案されているとおり、第9次IP-LRICモデルをモデル外で補正し※、その出力を十分に効率的な設備配置に近付けた上で同モデルを適用することが、同期間中に限定した暫定的な対応としては妥当ではないか。

※ モデル出力のFRT配置台数を、NTT東日本・西日本の実網でのFRT配置台数を参照してモデル外で設定した台数と概ね一致するように補正する。具体的には、LRICモデル走行時のみ、モデル入力値としてのFRT単価を変動させることにより、モデル出力のFRT配置台数を制御する。この方法により、補正後のモデル出力におけるFRTとその他設備の設備容量の整合をとることができる。

- その上で、補填額算定の本来の在り方を踏まえ、今後速やかに、第9次IP-LRICモデルのアクセス網の設備配置ロジックを見直した上で、見直し後のモデルを適用した補填額の算定を行えるように努めることが必要ではないか。